

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|------------------------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 1475400808 | 事業の開始年月日 | 平成18年3月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成18年3月1日 |
| 法人名 | 日本ケア創造株式会社 | | |
| 事業所名 | 在宅サポートセンター生田 グループホーム響 | | |
| 所在地 | (〒214-0039) 神奈川県川崎市多摩区栗谷4-6-13 | | |
| サービス種別 定員等 | 小規模多機能型居宅介護 | 登録定員 | 名 |
| | | 通い定員 | 名 |
| | | 宿泊定員 | 名 |
| | 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 9名 |
| | | 工外数 | 1工外 |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月15日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成24年6月14日 |

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|---|
| 個別ケアをしっかりと、出来る限り機能低下を防ぎ生活の質の向上と健康面、安全面に注意し楽しく生活していただく。生活リハビリを取り入れた介護により普通のお風呂に車椅子になっても入ることができる。 |
|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|----------------------|---------------|------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年2月10日 | 評価機関 評価決定日 | 平成24年5月14日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

| |
|---|
| <p>【事業所の概要】 グループホーム響は、小田急小田原線生田駅南口から徒歩9分、バス通りを1筋南に入った閑静な住宅街にある。鉄筋2階建ての1階は同法人が運営するデイサービス、居宅介護支援事業所であり、2階部分をグループホームとして使用している。また同階に、介護保険外サービスの宿泊設備として、別途2部屋を併設している。 9つの居室に囲まれた中央のリビングルームは、天井が吹き抜けで、自然光を十分取り入れる構造になっており明るい。ここに高さの違う椅子とテーブルを配置し、利用者が最良の姿勢を保つことが出来るよう工夫している。居室は約8畳と広々としており、高さ調節可能な洗面台が設置されている。加えて大きな出窓が付いており、利用者が花、マスコットなど思い思いの飾りを施している。風呂は陶器製の円形浴槽で、重度化した利用者に対しても、たっぴりのお湯で肩までつかってもらふ介護を実践している。 1ユニット（利用者9名）でありながら、夜間は職員2名体制であることも、利用者、家族に安心感を与えている。</p> <p>【理念の実践と生活リハビリの推進】 「職員が家族を託したいホームを作る」との思いを職員間で共有し、「住み慣れた地域での暮らしを応援する」を始めとする9項目の介護現場での実践テーマを表した理念を掲げ、生きがいある生活の継続を支援している。個別ケアを基盤とし、利用者個々に、立ち上がりから、歩行、外出支援、入浴方法などをきめ細かく介護計画書に位置付け、生活とリハビリテーションが一体化した介護に取り組んでいる。生活を時間で区切るのではなく、出来る限り利用者個々のペースに合わせ、ゆっくり、ゆったりと生活を楽しんでもらう介護を実践している。</p> |
|---|

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|--------------------------|---------|---------|
| 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|-----------------------|
| 事業所名 | 在宅サポートセンター生田 グループホーム響 |
| ユニット名 | |

| アウトカム項目 | | | |
|---------|---|--|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25) | | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38) | | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31) | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19) | | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19) | | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12) | | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関に掲示し、理念を共有するようにしている | 「住み慣れた地域での暮らしを応援する」を始めとする9項目からなる事業所の独自理念を掲げ、職員は利用者の地域生活の継続を支援している。管理者は日々のサービス提供場面で、その都度理念に触れ、職員を指導している。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、町内の回覧板に響通信をのせてもらったり地域の方のおもちつきのおもちや敬老会のお菓子など持って来てくれたりしている | 町内会に加入し、夏祭りなどの行事に参加している。法人の月間広報紙を回覧板に入れてもらい、同主催の介護教室などへの参加を呼びかけている。今では散歩時などに、利用者も職員も地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の民生委員の施設見学、介護の勉強会などを行っている | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催しグループホームの状況報告や介護の話し合いをおこなっている | 利用者家族、町内会長、老人クラブ会長、区職員参加の下、2ヶ月に1回開催している。議題は事業所の状況報告、地域の問題など多岐に亘るが、外部評価の結果もこの場で報告、討議され、事業所運営に反映されている。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加してもらい状況報告をおこなっている また、何かあった時はその都度報告している | 管理者は要介護認定更新の機会などに区役所へ訪問し情報交換している。県認知症高齢者グループホーム協議会の研修に参加し連携を深めている。運営推進会議には毎回区職員の参加を得て、意見交換をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のマニュアルを作成しているも、身体拘束はおこなわない 出入り口も日中施錠していない | 事業所理念に沿い「身体拘束はいかなる場合もしない」としている。現在身体拘束の対象者はいない。ユニットのドア、玄関共、日中は施錠していない。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルを作成している ミーティングなどで虐待についての話をしている | | |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度について必要な家族には情報提供している | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際読みながら説明をして、その都度質問に答えている | | |
| 10 | 6 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置 家族会、新年会の機会を作り意見を引き出す機会を作るようにしている | 家族来訪時の打ち合わせは、相談記録に記載し、職員間で共有している。年1回家族会を開催し、要望を聞いている。外部評価での家族アンケート要約を基に「階段昇降運動の取り入れ」「散歩機会の確保」などの改善を行った。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のスタッフミーティングで意見を聞く機会を作る 代表者は年2回職員との会食会の機会を作り賞与時スタッフと話す機会を持っている | 管理者は、職員から声を掛けることが出来る雰囲気作りに努め、気軽に相談に応じている。また夜勤時に職員とゆっくり話す機会を設けている。月1度のスタッフミーティングも職員提案の場となっている。出された意見は、利用者の支援方法、掲示物、飾り付けなどで、サービスに反映されている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与、賞与の査定や経営会議で状況の把握に努めている 乳幼児にいる職員に対して時短などの利用ができるように配慮している | | |
| 13 | | 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1回法人内で研修の機会を作っている 外部研修のチラシを休憩室に置き見れるようにしている | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 他事業所の見学に行き情報収集に心がけている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前訪問をして話を聞き入所の際はアセスメントをして本人の理解に努めている | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所に対して心配がないかの確認を必ずしている | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設見学の際他の施設の見学や老健、ショートステイなどのサービスの説明をしている | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お盆拭きや洗濯たたみ、テーブル拭きなどお手伝いをお願いしている | | |
| 19 | | 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 外出や受診の依頼 運営推進会議の参加など協力をお願いしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | 8 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人が来やすい雰囲気を作ったり馴染みのお菓子をおやつにしたりしている | 入居前の生活歴、趣味に配慮し、編み物の環境を整えたり、興味を引くDVDを用意するなどの支援をしている。友人の来訪を受け、居室へのお茶出しなどで歓迎している。利用者の帰省旅行時は、介護の注意事項を家族に渡し、旅のサポートをしている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 落ち着いて過ごせる座席、入居者同士が会話できるように職員が輪にはいり会話をすすめていくように配慮している | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院に入院した場合一時外出や外泊時など必要なサービスの紹介をしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 入所の際アセスメントをして今までの生活習慣の把握に努めている できる限り本人の状態に合わせたケアをするように心がけている | 郷里の事など利用者が興味を持つ話題を投げ掛け、話が弾む環境を作り、意向の把握に努めている。意向を表すことが困難な利用者については、表情の観察などから読み取っている。必要と思われる事項はアセスメントに書き足し共有している。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に本人、家族に話しを伺いアセスメントしている | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月1回のミーティングで現状の把握、統一したケアを行うように話し合いをしている | | |
| 26 | 10 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者が家族と話し合い計画の作成を行っている 家族や本人の思いをミーティングで話し合って理解している | 全職員参加による月1度のケアカンファレンスで、介護計画書の作成、見直しを行っている。家族の意向、主治医の指示、ナース記録を取り入れた総合的な介護計画としている。通常6ヶ月毎、状態に変化が生じた場合は都度の見直しを実施している。 | 介護計画書を中心としたマネジメントサイクル（PDCA）の認識を高めるためにも、職員がこれを意識したケアが出来るよう記録文書などを工夫することを期待します。 |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を日勤、夜勤で記入し情報の共有を図っている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の状況により通院援助をナースやスタッフが代わって行うなどしている | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問歯科、訪問マッサージなどの支援を行っている | | |
| 30 | 11 | かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 今まで受けていた医療が受け続けられるようにドクターと連絡を取り合い必要があれば付き添いをしている | 入居前の主治医の往診を受けている利用者が数名いる。法人の代表でもある協力医の往診が月1回実施され、法人の看護師と共に、事業所全体の健康管理にも協力している。通院は家族が行うことを原則としているが、必要に応じ職員による通院支援も行われている。 | |
| 31 | | 看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 朝必ず看護師にその日の状況変化やバイタルを伝えている | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中のカンファレンスの把握やお見舞いに行き状況把握に努めている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|-------------------------------------|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | 12 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の際や家族会の時などに看取りや延命について話をする機会を持っている | 入居契約時に利用者と家族に対し、重度化した場合の要望を聴取し「事業所の対応し得る範囲」などを説明している。重度化した場合の対応が必要となった場合は、医師などを交え、段階的に関係者で対応を検討している。 | 「重度化した場合の対応についての方針書」などを作成し、文書の下に、利用者、家族と方針を共有していくことを期待します。 |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティングで話をして対応について学んでいる | | |
| 35 | 13 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年1回避難訓練を消防署立会いのもと行っている | 消防署の協力の下、年1回の防災訓練を実施している。老人クラブ会長の参加も得ている。水、食料、おむつなどの備蓄がある。夜間想定訓練も予定されている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 声掛けに関してその方に気持ちよく協力してもらえるように常にお願ひする気持ちでおこなっている | 尊厳を損なう言葉を禁句として定め、職員間で注意し合っている。また失敗時の清潔保持など断られたら困る場合は、お願ひの気持ちを言葉に込めて、風呂場などへ誘導している。食事の際にも利用者はエプロンなどを着用せず、普段着のまま一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お茶を飲みますか？ 休みますか？ など質問する声掛けをしている 選択のできる環境を大切に考えている | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 傾眠の強い時は食事や入浴の時間をずらしたり横になってもらうよう対応している | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髪カットや毛染めなど必要に応じて対応している | | |
| 40 | 15 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は必ずスタッフと入居者が同じものを同じ空間で食べるようにしている また、その方その方に合わせた食事形態にしている | 職員と利用者が同じものを語りながら食べている。食器や箸は利用者の好みのもを使用し、目が見えにくい利用者には、認識しやすいよう黒い茶碗でごはんを出している。利用者はできる範囲で準備、片付けを手伝っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量の把握 水分と排泄の注意をし水分摂取の少ない方には声掛けやポカリスエットで対応している | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の方は食後に洗浄している 夜間ポリドントにつけ口腔ケアの必要な方は訪問歯科を依頼している | | |
| 43 | 16 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し誘導している 紙パンツの使用を減らしピタットパンツ対応している | トイレでの排泄を基本とし、利用者個々に分析された排泄パターンを把握して、支援している。夜間も昼間と同様にトイレ誘導を行っている。トイレはユニット毎に3ヶ所ある。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝食に必ず乳製品を取り入れ午前中に体操などの身体を動かす時間を作っている | | |
| 45 | 17 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は2日に1回を予定しているが通院や外出、来客など状況に合わせて対応している | 1日おき、午前の時間帯での入浴を原則としている。入浴したがない利用者は、午後に時間を変更したり、雑談をして気分を変えてから誘うなどの工夫をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間がゆっくりな方はその時間に食事を合わせたり、昼食後に昼寝の時間を作っている | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬はナースが管理 内容に変更があった場合は申し送りノートに記入して皆で把握している | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 選択たみやお盆拭きの家事をお願いしている 外食会を企画したり食べる楽しみを作っている | | |
| 49 | 18 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族とスーパーや墓参りに行ったり皆で外食に出かけたりしている | 天候が良い日は、職員が付き添い、散歩や買い物に出かけている。初詣、花見、みかん狩りなどの季節の外出行事も豊富である。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小額を財布に持っている方がいる | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|
| | | | 自己評価 実施状況 | 外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙が届いたら渡し読むお手伝いをしている | |
| 52 | 19 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節にあった飾りや外出の写真を飾ったりしている | 9つの居室に囲まれたリビングルームの天井は季節毎に飾り付けを変えている。壁には行事の写真を貼っている。畳のスペースもあり利用の憩いの場所となっている。 |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 畳台を置いたりしている | |
| 54 | 20 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 洗面台、キャビネット以外は使い慣れた家具を設置し 季節の花など飾っている | 居室は約8畳と広く、長めのソファを置いている利用者が多い。高さ調節可能な洗面台が設置され、大きな出窓も付いている。利用者は思い思いの馴染みの物を持ち込み、居心地良く暮らせる空間となっている。 |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室前に表札を掛けテーブルや椅子の高さに配慮し自分で立ち上がりしやすい空間をつくっている | |